

1	(1)	796	(2)	1906	(3)	500	(4)	35
	(5)	173	(6)	30	(7)	47	(8)	48
	(9)	36	(10)	34	(11)	$\frac{4}{15}$	(12)	9 (匹)
	(13)	33 (m)	(14)	6 (枚)	(15)	6		

2	(1)		(2)	22 番目	(3)	26 番目
---	-----	---	-----	-------	-----	-------

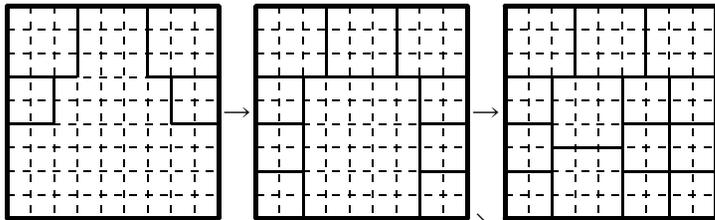
3	(1)	2 通り	(2)	12 通り
---	-----	------	-----	-------

4	(1)	11	(2)	9
---	-----	----	-----	---

5	(1)	2 点	(2)	7 点	(3)	77 点
---	-----	-----	-----	-----	-----	------

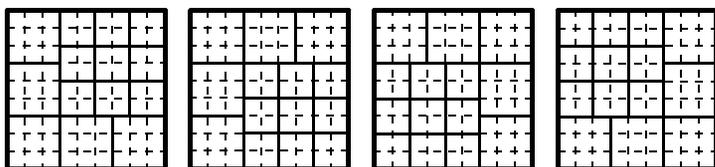
- 1 (12)  $8 \times \square + 4 \times 7 = 100$  (本)  
 $100 - 4 \times 7 = 72$  (本)  $72 \div 8 = \underline{9}$  (匹)
- (13)  $12 - 1 = 11$  …間の数  $3 \times 11 = \underline{33}$  (m)
- (14)  $50 \times 14 = 700$  (円)なので、10円玉がある。  
 10円玉が10枚のとき、 $14 - 10 = 4$  (枚)で  
 $650 - 10 \times 10 = 550$  (円)はできない。  
 よって、10円玉は5枚。 $14 - 5 = 9$  (枚)で、  
 $650 - 10 \times 5 = 600$  (円)を作る。  
 $100 \times 9 = 900$  (円)では多すぎるので、  
 $900 - 600 = 300$  (円)へらす。  
 100円玉を50円玉に取りかえると、  
 $100 - 50 = 50$  (円)へるので、  
 $300 \div 50 = 30 \div 5 = 6$  (回)取りかえる。  
 よって、50円玉は6枚。
- (15)  $\square\square 7\square + 4\square = \square\square\square\square$   
 ㉞ 97㉟ + 4㊀ = ㉠0㉡㉢ 残り ; 1 2 3 5 6 8  
 ㉞と㉠は1ちがい。㉡が1のとき、㉟、㊀、㉢は  
 $2 + 3 = 5$ ,  $2 + 6 = 8$ ,  $3 + 5 = 8$ だが、どれ  
 も残りの数が1ちがいでないのでおかしい。  
 よって㉡は2で、㉞、㉠が5、6となる。  
 ちなみに  $5973 + 48 = 6021$  などがある。

- 2 (1)  $20 \div 3 = 6$  (セット)あまり2  $\rightarrow \triangle$   
 $20 \div 4 = 5$  (セット)  $\rightarrow 4$   
 よって、4。
- (2) ①から④までの12このくり返しになっている。  
 ②の1こ目は10番目なので、②の2こ目は、  
 $10 + 12 = \underline{22}$  (番目)
- (3)  $\triangle$ の1こ目は2番目。3こ目は、その2回あと。  
 よって、 $2 + 12 + 12 = \underline{26}$  (番目)

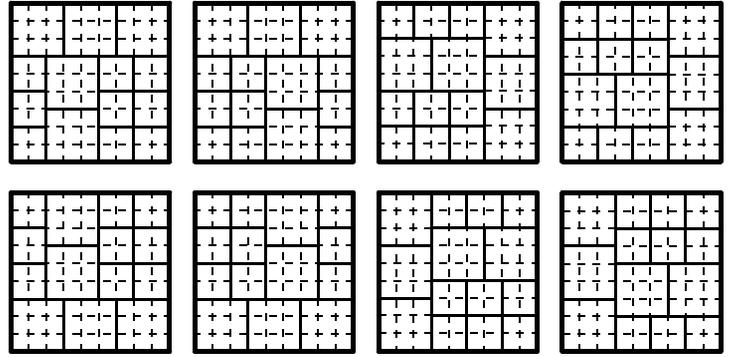
3 (1) 

図のように、2通り。

- (2) 1辺の長さが3cmの正方形が、すべて大きな正方形の辺にくっつくものは、図2や図3などの4通り。(下の図)

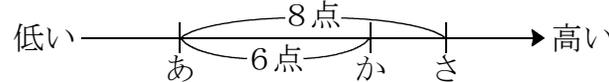


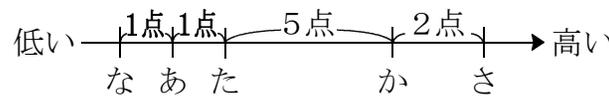
また、(1)から考えて、そうでないものが  
 $2 + 2 + 2 + 2 = 8$  (通り) (下の図)



よって全部で、 $4 + 8 = \underline{12}$  (通り)

- 4 (1) Cが2のとき、Bは、 $2 \times 2 + 1 = 5$   
 Aは、 $5 \times 2 + 1 = \underline{11}$
- (2)  $39 \div B = 2$ あまり1  
 $\rightarrow (39 - 1) \div 2 = 19 \dots B$   
 $19 \div C = 2$ あまり1  
 $\rightarrow (19 - 1) \div 2 = \underline{9} \dots C$

- 5 (1) あつきとかずやのことばから、直線上にまとめる。  
  
 よって、かずやとさとの点のちがいは、  
 $8 - 6 = \underline{2}$  (点)
- (2) さとしとたくみのことばを式にする。  
 さとし + なおと = かずや + たくみ  
 たくみ + なおと = かずや + さとし - 14  
 そのままたして、  
 $\underline{\text{さとし} + \text{たくみ} + \text{なおと} + \text{なおと}}$   
 $= \underline{\text{かずや} + \text{かずや} + \text{たくみ} + \text{さとし} - 14}$   
 $\rightarrow \underline{\text{なおと} + \text{なおと} = \text{かずや} + \text{かずや} - 14}$   
 よって、かずやとなおとの点数のちがいは、  
 $14 \div 2 = \underline{7}$  (点)

- (3) さとし + なおと = かずや + たくみ  
 (2)で、なおとはかずやより7点低いので、  
 さとしは、たくみより7点高い。  
 よって、5人の点数は次のようになる。  
  
 一番点数の低いなおとの点数を①点とすると、  
 $\text{①} + \text{①} + 1 + \text{①} + 2 + \text{①} + 7 + \text{①} + 9$   
 $= \text{⑤} + 19 = 404$  (点)  
 $(404 - 19) \div 5 = \underline{77}$  (点)

(配点)各4点×25